

水需要の予測値と 湯西川ダムからの取水は

問

総選挙後の新設権のもと、ダム建設の見直しが行われているが、本市の湯西川ダムからの取水は、水需要・水源能力と構成からも、必要なしと指摘してきた。

水需要は、平成15年の水需要見直し後、すでに予測値と実績は大きく乖離している。

今回見直しを行わず、近い将来、湯西川ダム取水が必要ない水余りを招いた場合には、市民に大きな損害を与えることになるが、市長及び水道事業管理者の見解を伺う。

答

湯西川ダムからの取水については、これまで、水需要予測の見直しなどを行い、水道事業の重要性、永続性を踏まえて総合的に十分な検討を重ねてき



▲建設中の湯西川ダム 写真は、湯西川ダム工事事務所提供 (鹿島・清水JV撮影)

たところであり、今後も、水需要や水源の確保などに大きな変化が見込まれる際には、適宜、対応していく。

また、将来に向けてすべての市民に安全で安心なおいしい水を、安定して供給するために、湯西川ダムからの取水は、本市にとって必要であると認識している。

オストメイトへの 思いやりのある支援を

問

オストメイトとは、人工肛門を持つている人のことであるが、外出先でのトイレに関しての取り扱いが、社会生活上理解しにくく、行政の役割と市民の協力が問われている。人工肛門生活者に対する思いやりの共通認識がまだ少ないと感じるが、次の2点を伺う。

①外出時に安心して使えるトイレとオストメイトの生活向上が望まれているが、オストメイトトイレの施設改善並びにマップや看板、またトイレ内に説明書が常備されているのか伺う。

②災害に備え、避難支援と広域避難場所におけるオストメイトトイレの確保が要望されているかがか。

答

①オストメイトトイレについては、

公共施設のほか、病院や大型店舗などに設置されており、施設の位置を表示した「おでかけマップ」を配布しているが、案内表示や使用説明書など、まだ整備が必要であることから、整備拡充やよりよい表示のあり方について検討していく。

②オストメイトの避難支援については、災害時に避難所に併設される福祉避難所において、必要な器具の確保を検討していく。



▲オリオン市民広場のトイレに設置されているオストメイトトイレと案内表示

障がい者手帳の 色を統一できないか

問

障がい者手帳は、「身体障がい者手帳(赤色)」、「療育手帳(緑色)」、「精神障がい者保健福祉手帳(青色)」と障がいの種別によって、色を3つに区別しているが、他都市のように統一できないか、見解を伺う。

答

障がいの種別に応じて、身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の3種類があり、基本的には、各道府県が発行することになっている。

そのうち、身体障がい者手帳は、中核市自らが発行することになっており、手帳の色は、手帳を発行している自治体に任されている。現在、栃木県において、身体障がい者手帳は赤色、療育手帳は緑色、精神障がい者保健福祉手帳は青色となっている。また、都道府県の中には、3種類の障がい者手帳の色を同一としている都道府県が14あり、そこに所在する中核市の中で、県と同じ色にあわせている市が6市となっている。このような中、栃木県では、現在、障がい者手帳の色の統一について、関係団体の意見や他県の取り扱いなどを参考にしながら、研究を進めている。本市としては、その結果を踏まえ、手帳の色を検討していく。

